

厚生労働科学研究費補助金
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
分担研究報告書

Value-based medicine の推進に向けた循環器病の疾患管理システムの構築に関する研究

研究分担者 安斉 俊久 北海道大学大学院医学研究院 教授

研究要旨

心不全患者の急性期の予後予測、慢性期以後の多職種による多面的疾病管理の実態を明らかにするため、心不全患者に対する多面的包括的管理に対する質問票調査による横断調査を実施した。結果、地域連携パスの使用率は 14.4%であり、約 4 割の施設で心不全悪化リスク評価を行っていたが、心不全増悪を予防するための取り組みは約 6 割の施設で実施されることどまっていた。

A. 研究目的

心不全患者の急性期の予後予測、慢性期以後の多職種による多面的疾病管理の実態を明らかにする。

B. 研究方法

心不全患者に対する多面的包括的管理に対する質問票調査(下記項目)による横断調査を実施する。

- 1) 生命予後評価
- 2) QOL 維持のための多面的予後評価
- 3) 多職種連携による疾病管理の実施と実際

C. 研究結果

日本循環器学会研修病院 431 施設へのアンケート調査の結果、以下の結果が得られた。

- ① 62 施設(14.4%)で地域連携パスを使用。
- ② 307 施設(71.2%)で急性期病院とかかりつけ医の連携がとれていた。
- ③ 175 施設(40.6%)がリスク評価(重症化・再発・QOL 低下等)を行っていた。

- ④ 252 施設(58.5%)が心不全重症化・再発・QOL 低下予防に関する何らかの取り組みを行っていた。

D. 考察

地域連携パスの使用率は 2 割以下であり、今後更なる普及の努力が必要と考えられる。そのためには各地域レベルで多職種連携のプラットフォーム構築の努力が必要である。また、心不全増悪による入院中に多職種連携による重症化予防の取り組みを向上させるための啓発活動が必要と考えられた。

E. 結論

心不全診療の質向上を目指した多職種連携の普及は十分でなく、連携のさらなる啓発が必要である。

F. 健康危険情報

(総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Chiba Y, Iwano H, Murayama M, Kaga S, Motoi K, Ishizaka S, Tsujinaga S, Tanemura A, Yokoyama S, Nakabachi M, Nishino H, Okada K, Kamiya K, Nagai T, Anzai T. Presence of relevance of mid-systolic notching on right ventricular outflow tract flow velocity envelopes in pulmonary hypertension due to heart failure. J Am Soc Echocardiogr 2021; 34: 690-692.

2. Komoriyama H, Kamiya K, Nagai T, Oyama-Manabe N, Tsuneta S, Kobayashi Y, Kato Y, Sarashina M, Omote K, Konishi T, Sato T, Tsujinaga S, Iwano H, Shingu Y, Wakasa S, Anzai T. Blood flow dynamics with four-dimensional flow cardiovascular magnetic resonance in patients with aortic stenosis before and after transcatheter aortic valve replacement. J Cardiovasc Magn Reson 2021; 23: 81.

2. 学会発表

1. 安斉俊久. 左室駆出率の保たれた心不全と心房細動～Vicious Twins～. 第67回日本不整脈心電学会学術大会. ランチョンセミナー. 2021年7月 WEB 福岡

2. 安斉俊久. HFpEF と心房細動. 第67回日本不整脈心電学会学術大会. AF Summit. 2021年7月 WEB 福岡

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし